

目抜き通りを会場に元気なまちづくり

〜第21回ふるさと踊りと餅つこまつり〜

晴天に恵まれた初夏の日曜日となった6月5日、「第21回ふるさと踊りと餅つこまつり（和田テエ子実行委員長）」が鷹ノ巣駅前・銀座通りを会場に開催され、歩行者天国となった目抜き通りが、餅を買い求める人や見物客など終日多くの人出でにぎわいました。

午前中は餅の販売やフリーマーケットなど各団体の出店が中心。各地区婦人会などが用意したお焼きやごま餅など手づくりの餅は、種類も彩りも豊かで、開店

と同時に、飛ぶように売れていました。

また、餅の引き伸ばし大会や流しソーメン大会も大盛況。

そして、午後から始まったふるさと踊りには、各地区婦人会など9団体、300人を超える踊り手が参加、餅を振舞う大八車と綴子大太鼓の先導で華やかな行列が始まり、沿道を埋める観衆は、あでやかな衣装の踊り手や、子ども太鼓のかわいいしぐさに惜しみない拍手を送っていました。



種類も豊富な餅の販売



女性パワーがみなぎったふるさと踊り

「植えようよ 大地に緑 天たかく」

〜北空港ふれあい緑地で秋田県植樹祭〜



寺田県知事ほか植樹祭のテーマとなった標語の入選者・藤嶋駿輔君らが参加し、記念碑を除幕



市民らが参加し、1,100本の樹木を植樹しました

第56回秋田県植樹祭が5月28日「あきた北空港周辺ふれあい緑地」を会場に開催され、県知事ほか関係者、市民らによって記念植樹が行われたほか、緑化推進などに功績のあった学校・団体が表彰され、森林づくりや緑の保全による豊かな郷土づくりへの誓いがなされました。

同植樹祭は、豊かな水と緑の創造及び環境保全などの意識を高めることを目的に毎年開催されているもので旧町時代を含めると、北秋田市ではこれまで、昭和33年の旧鷹巣町（中央公園）、48年の旧合川町（山研沢）、55年の旧森吉町（浦田字高淵地内）と計3回開催されています。

植樹祭の記念に設置された記念碑には、藤嶋駿輔君（鷹巣中学校2年）の標語「植えようよ 大地に緑 天たかく」が記され、緑豊かな郷土づくりを呼びかけています。

温暖化や環境破壊などが課題となっている今、植樹や緑化推進は、私たちができる最も地球に優しい対策の一つです。